資 料 4

成田空港を取り巻く環境変化と会議の位置付けについて

成田空港緊急戦略プロジェクト会議での検討

〇成田空港の活用施策等を検討するため、平成21年度～平成22年度にかけて、成田空港緊急戦略プロジェクト会議を開催。
〇同会議の議論の結果を「中間とりまとめ」として整理し、空港機能強化・県内経済活性化策についての提言がなされた。県として提言実現に向けての取組みを継続中。

成田空港緊急戦略プロジェクト会議

平成21年12月、平成22年3月の成田空港容量拡大（20万回→22万回）や同年7月の成田スカイアクセス開業といった成田空港の機能強化を契機に、“成田空港の競争力強化と県内経済の活性化”を目指し“プロジェクト会議”を設置。

中間とりまとめの提言内容

■提言１　官民一体となった成田空港のPR強化
■提言２　成田空港と地方都市を結ぶ国内フィーダー路線のPR・充実
■提言３　空港利用者に対する“おもてなし”機能の向上
■提言４　成田空港の国際競争力の向上
・成田空港発着枠の更なる増加（30万回化）を早期にかつ着実に実現すべき
・成田空港と東京駅間のアクセス改善の検討を推進すべき
・道路アクセスの改善（圏央道等の早期完成・アクアラインの料金引き下げ恒久化等）
■提言５　空港を活用した県経済の活性化
・空港を活用したインバウンド観光の推進（MICE誘致等）
・物流機能の高度化、企業誘致の推進、広域ネットワークの強化による経済ポテンシャルの向上
・新スキームによる県経済の活性化検討（国際戦略総合特区、空港周辺カジノ検討等）

中間とりまとめにおける提言事項に対する主な取組み状況

◎ 官民一体となった成田空港のPR強化

・広報戦略組織を活用し、各関係者が連携し、官民一体となった　取組みを行うべき	・スカイアクセスの開業を契機にマスメディア等を利用した広報や県外企業に対するPRリーフレットの配布等を実施

◎ 成田空港と地方都市を結ぶ国内フィーダー路線のPR・充実

・成田空港の国内線の周知・利用促進を図るべき ・国内未就航都市への展開や多頻度化	・国内線充実のため、各エアラインに働きかけるとともに、旭川便新規就航に合わせて利用促進活動を実施

◎ 空港利用者に対する「おもてなし」機能の向上

・CIQについては入国審査での待ち時間短縮のためにも、施設面の改善や人員増員を図るべき	・与党及び関係省庁に要請

◎ 成田空港の国際競争力の向上

・成田空港の発着枠の更なる増加（30万回化）	・昨年10月　四者協議会で30万回合意
・需要の高い時間帯の発着枠を2本の滑走路を効率的に活用する等の方策により、増枠すべき	・本年10月、同時離発着の開始
・圏央道・外環・北千葉道路の早期完成を実現、新空港自動車道の料金無料化や東京湾アクアラインの恒久的な料金引下げを実現すべき	・与党及び関係省庁に要請 ・東京湾アクアライン料金引下げ社会実験

◎ 空港を活用した県経済の活性化

・海外から県内観光にヒトを呼び込むために、観光の商談会に積極的に参加するなど、千葉の観光地・魅力を売り込むべき	・11月に知事を訪問団長として県内事業者等とともに、台北国際旅行博開催に合わせPRを実施 ・また台北と高雄で商談会を実施
・県内各拠点の強みを活かした産業集積、戦略的な企業誘致を推進するとともに、成田空港と各拠点との広域的なネットワークを強化するための方策を検討すべき	・戦略的な企業訪問や知事によるトップセールス、外資系企業交流会等を展開
・成田空港周辺において、国際的なコンベンション機能の充実に向けた検討をすべき	・国際会議開催補助金の新規創設
・カジノについては、成立可能性について検討をはじめるべき	・複合施設の導入イメージの具体化や、カジノ導入による懸案事項対策等について、具体的な調査・検討に着手

成田空港を取り巻く環境の変化

成田緊急戦略プロジェクト会議
第6回会議での状況分析

世界的な潮流

- 航空需要の高まりとアジアにおける空港間競争の激化
- オープンスカイの進展
- ローコスト・キャリア（LCC）の台頭

国内の情勢

- 羽田空港の再国際化
- 日本航空の経営再建

＋

発着容量30万回の合意

＋

新たな状況変化が加わる！

その後1年間での新たな動き

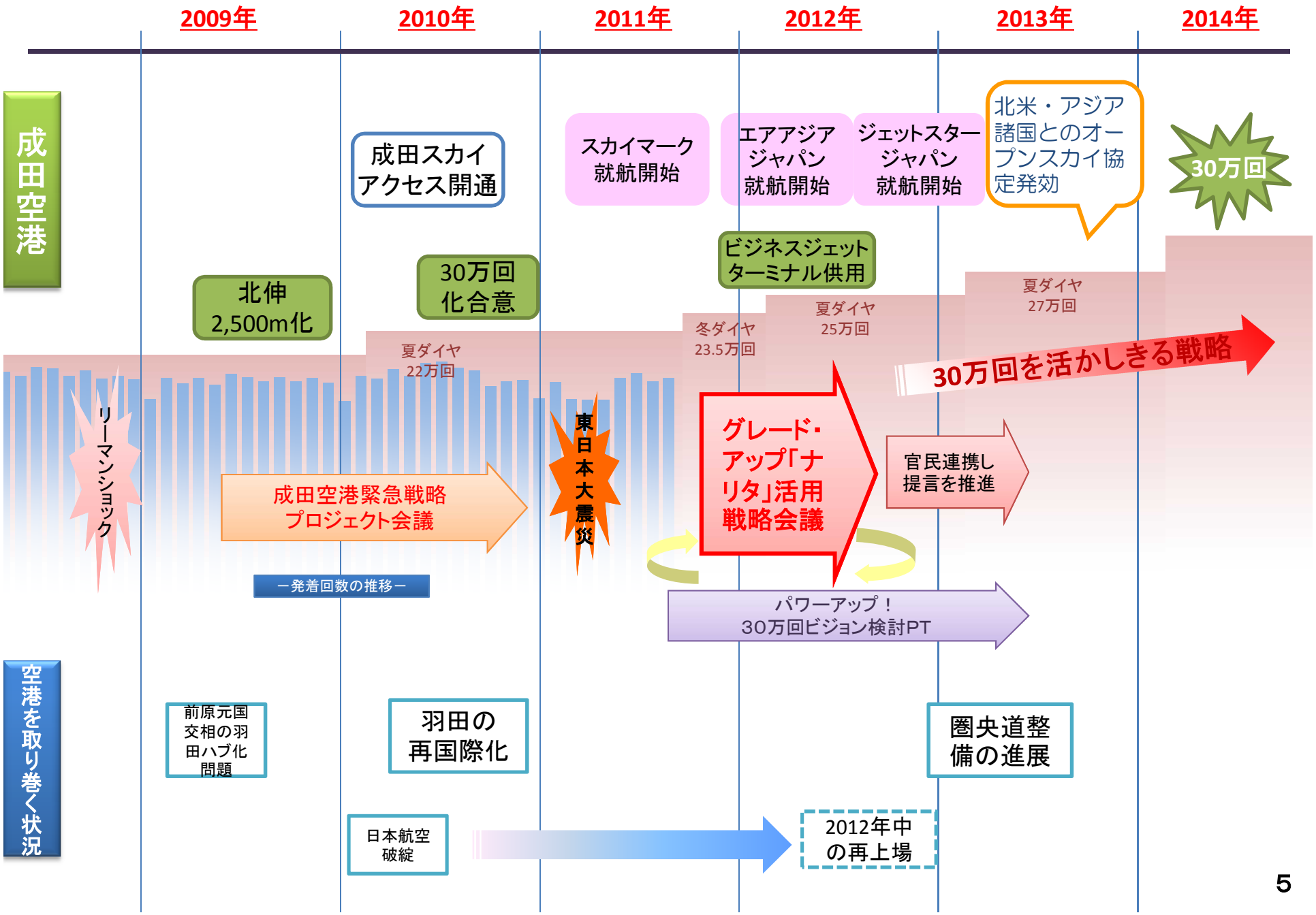
- LCCが首都圏空港へも進出する動きが加速化（エアアジア・ジャパン、ジェットスター・ジャパン設立）
- スカイマーク社が新規就航するなど成田の国内線路線の拡充・増便
- 日本航空再上場に向けた動き（ボストン便の新規開設等）
- 欧州危機による世界経済の先行き不透明化
- 東日本大震災や急激な円高によるインバウンド旅客の減少

グレード・アップ「ナリタ」活用戦略会議での主な論点

内部要因 （成田空港を取り巻く環境） 外部要因 （国政策・経済環境）	強み（Strength） 30万回化・オープンスカイ 国内線の充実 LCCの相次ぐ就航 日本航空の再生	弱み(Weakness) 割高な公租公課 都心から遠いという固定概念 県内外への二次交通の不足 国内外への魅力の発信不足
機会（Opportunity） 中国へのビザ要件緩和 総合特区制度 圏央道整備の進展 アクアライン値下げ	強みと機会を活かした 成長戦略	弱みを改善して 機会を活かす
脅威(Threat) アジア空港間競争の激化 東日本大震災 歴史的な円高 欧州ソブリン危機	強みを活かして 危機を克服	弱みを改善して 脅威に備える

パワー・アップ！30万回ビジョン検討PTでの検討
官民連携による取り組み

成田空港を取り巻く環境変化と会議の位置付け

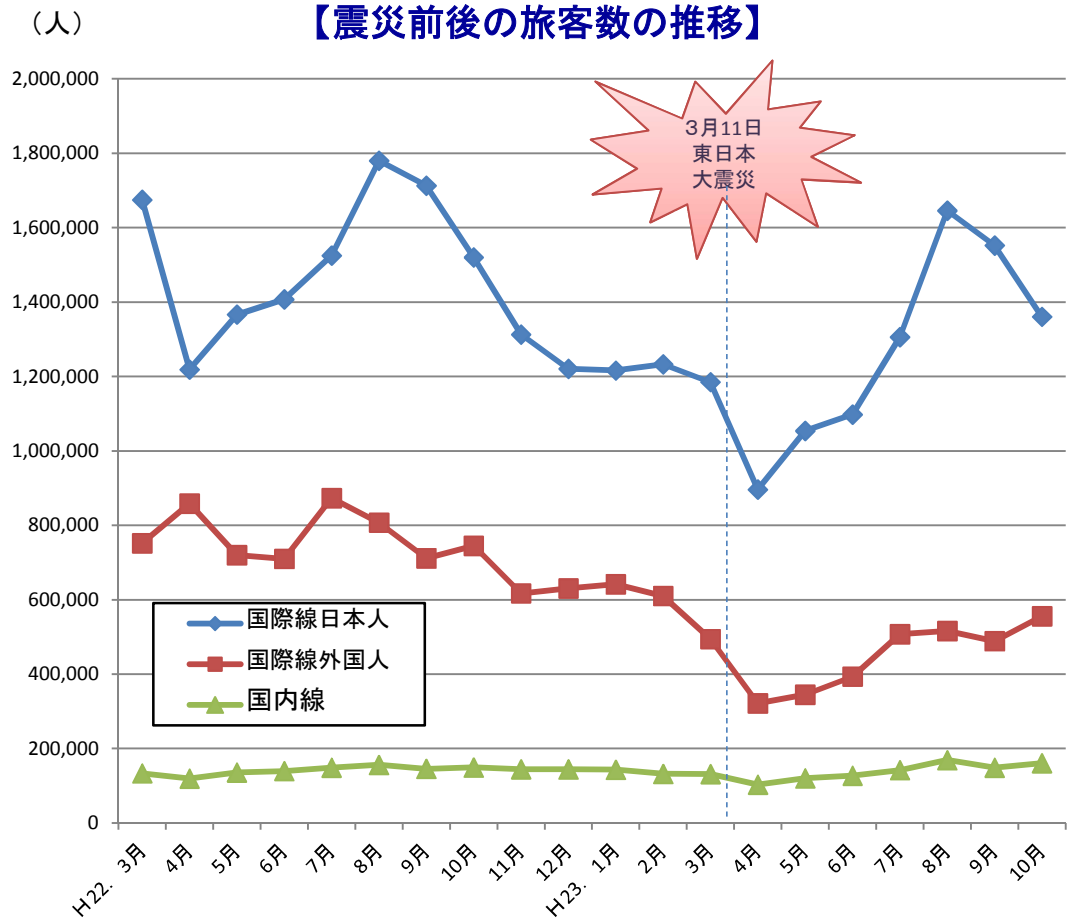


参考1　成田空港を取り巻く状況

○成田空港の30万回化に向けた動きを踏まえ、国内路線の新規就航・拡充や、成田空港を拠点とするLCC（格安航空会社）が設立され、今後国内・国際線への就航が予定されるなど、新たな動きが活発化している。

○成田の国際線旅客数等は東日本大震災の影響を受けて大きく落ち込んだが、全体的に回復基調にあり、特に日本人については出入国とも震災前の水準に戻ってきている。

【震災前後の旅客数の推移】



【国内線の新規就航】

・スカイマーク社が新規就航。
・10月30日の旭川、新千歳、12月8日の那覇に引き続き、福岡・神戸・仙台にも就航予定。

←旭川への初便運航に合わせて、知事が旭川空港を訪問し、国内線の利用促進に向けたPRを実施。

【新規LCCの就航】

・全日空及び日本航空はLCCを外国資本等と共同出資して設立

☆エアアジア・ジャパン㈱
①資本金：50億円まで増資
(ANA67%,エアアジア33%)
②拠点空港：成田空港
③運航路線：成田＝札幌、福岡、那覇（2012年8月）・仁川、釜山（2012年10月）

☆ジェットスター・ジャパン㈱
①120億円まで増資
(JAL33.3%,カンタス33.3%,三菱商事33.3%)
②成田空港or関西空港
③成田、関西、福岡、沖縄の国内線・アジア短距離国際線を予定（2012年中）

参考2　パワーアップ！「30万回ビジョン検討プロジェクトチーム」について

○グレードアップ「ナリタ」戦略会議での検討課題を整理し、同会議での議論を深化させるため、県庁内の組織として、パワーアップ！「30万回ビジョン検討プロジェクトチーム」を立ち上げたところ。

○パワーアップ！「30万回ビジョン検討プロジェクトチーム」の下には、広域活性化部会、情報発信部会、国内線活用部会を設置し、年間発着枠30万回のさらなる活用に向けた施策を検討。

検　討　体　制

カジノ＆
コンベンション
ワーキンググループ

ＰＴ長：坂本副知事

事務局：空港地域振興課

広域活性化部会

部会長：総合企画部長

事務局：政策企画課

- 道路計画課
- 観光課
- 経済政策課
- 交通計画課
- 空港地域振興課
- 政策企画課

役　割

本県経済の戦略拠点である成田空港から生じる効果を広く県全体に波及させるための各種施策を検討

情報発信部会

部会長：総合企画部担当部長

事務局：報道広報課

- 生産販売振興課
- 観光課
- 空港地域振興課
- 国際課
- 報道広報課

役　割

千葉県の「宝」である成田空港や、周辺地域をはじめとする県全体の魅力を国内はもとより、全世界に効果的に発信するための各種施策を検討

国内線活用部会

部会長：総合企画部次長

事務局：空港地域振興課

- 観光課
- 経済政策課
- 交通計画課
- 空港地域振興課

役　割

国内線の拡充に伴い、県民に愛され、県民に使い易い空港を目指すとともに、国内観光客等の利用促進を図る各種施策を検討